

～子供たちの夢をかなえる教師になる！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成31年2月9日
<第9号>
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318

●第19回講座「これからの教育に期待すること」

平成31年1月12日（土）に、ミズノ株式会社 相談役会長 水野 正人 様を講師にお招きし、「これからの教育に期待すること」をテーマとして第19回講座を行いました。教師としての資質・能力を高めるため、常に新しい情報に基づく国内外の政治、経済、社会の動向等に関心を持ち、これからの教育に期待されることやリーダーとして求められる姿を学ぶことを目的として実施した今回の講座は、連携大学にも公開した講座であり、当日は約40名の参加がありました。

講師からは、海外留学やオリンピック招致活動をはじめとした御自身の経験や、グローバル企業の経営を通して得られた事柄を基に、これからの教育に期待することや教育の重要性について御講義をいただきました。塾生から講師に対して、「人材育成で大切にしていること」、「自分を成長させる手だて」等について質問するなど、塾生にとって広い視野から教育について考える機会となり、学びを深めることができました。

【塾生の感想より】

- ・ 児童の個性を最大限に生かすとともに、児童のもつよさを伸ばすことを常に意識し、学級を経営したいと改めて感じた。教育の不易と流行を見極め、どのように実践していけばよいのかを自ら考えながら授業に臨みたい。
- ・ 何事も一点だけを見て物事を判断するのではなく、大きな全体像を把握することが教師にとって重要であると分かった。また、経験をすることで全てが始まり、様々なことを児童にも伝えていくことができると思うので、多くの経験をして成長していきたい。
- ・ 教育を考えると、国内のことだけではなく、世界情勢や環境のことなども意識していく必要があると感じた。教育にはそのような世の中の動きも反映されていて、移り変わりの激しい現代の中で自分の力を発揮し、子供たちを育てることが教師の使命であると感じた。

●第20回講座「若き教師に期待する～これから教師になる皆さんへ～」

平成31年1月26日（土）に開催した第20回講座では、「若き教師に期待する～これから教師になる皆さんへ～」をテーマに、東京都教職員研修センター 大和 義行 研修部長による講義を行いました。

大和研修部長からは、教師に対する都民や保護者、子供たちの期待は大きく、それに応えるべき責務があることや、そのために教師が考えなければならないことについて講義を行いました。

その上で、東京都小学校科学展等の具体的な取組を通して子供たちの姿を捉えていくことや、40年の教師生活を10年ごとに考えると身に付けるべき力が明確になること等の助言がありました。さらに、この10年間の教育の変化を概観し、今後の教育の在り方に対応するためにも、「常に学び続ける教師」であってほしいとの期待を込めた言葉が述べられました。

塾生は、その後の班別協議において全20回の講座を振り返るとともに、研修部長の講義の内容を確認し、4月からの教師生活に向けて、活発に意見や感想を出し合いました。

【塾生の感想より】

- ・ 教師は周囲から求められる期待に応えられるよう、常に学び続けることが大切であると改めて学んだ。養成塾での一年間の学びを糧に、自ら課題を見付け解決できるよう、日々努力し続ける教師でありたい。
- ・ 4月から教師になる以上、覚悟と自覚をもたなければならないということを改めて実感した。10年後、自分がどのような役割を担うのかについて今から想像し、自らがもっている理想の教師に近付けるよう、努力を続けていきたい。
- ・ 教師という仕事に就くにあたり、保護者や地域の方々、そして、子供からの期待に応えなければならない責務があるということを改めて認識した。4月からは実習生ではなく、子供を教育する専門家として見られることを自覚し、今できる学びや経験を深めたいと強く感じた。



—大和部長の講義—

●模範となる授業参観

東京教師養成塾では、塾生の実践的指導力の一層の充実を図ることを目的として、11月下旬から2月までに東京教師道場の部員による公開授業の参観を行っています。小学校コースの塾生は、小学校の授業を、特別支援学校コースの塾生は、基本的に実習を行う指定校と同じ障害種別の授業を参観しました。

●特別教育実習～一日学級担任の紹介～

塾生は、教師養成指定校で約40日間、校長先生をはじめとする多くの先生方から、教育者としての自覚や責任、各教科等における学習指導、児童・生徒への柔軟な対応等について指導を受け、学んできました。約1年間の特別教育実習のまとめの時期にあたる1月は、多くの塾生が一日学級担任を行いました。塾生は、学級担任の立場を経験することにより、見通しをもって指導に臨むことや、学校や学級全体を把握した上で児童・生徒に対応することの大切さを学びました。



職員打合せ	
8:10～ 8:45	登校の指導 朝学習・朝の会指導
8:45～ 12:20	授業実践
給食指導	
休み時間	
13:45～ 14:30	授業実践
14:30～ 14:50	帰りの会・下校指導
放課後	採点・指導教員との打合せ

【小学校コース】一日学級担任の時程例

【連載シリーズ コラム⑮】

◆全ては、目の前の子供たちのために◆

東京教師養成塾教授 國分 重隆

4月からの新たなスタートを前にして、皆さんの心の中には今どんな思いが満ちているのでしょうか。

私は、東京の教師になる皆さんには、やはり東京都が求める教師像を自分の生き様で体現する決意はもっていてほしいと思います。そのキーワードは、「①教育に対する熱意と使命感、②豊かな人間性と思いやり、③子供の良さや可能性を引き出し伸ばす、④組織人としての責任感と協調性、互いに高め合う」です。加えて、4月からの様々な人たちとの関わりにおいて大事にしてほしいことは、「謙虚さ、誠実さ、直向き、明るさ」です。その姿勢は、学校に新たな風を入れ、教育活動を活性化していく原動力にもなります。これらはいつの時代にも変わらない教師の必要条件で、教師である自分がその職を通して具体化していかなければならないものです。社会は、それを教育のプロとしての皆さんに期待しています。

では、これらの教師像や姿勢の具体化は何のために必要なのでしょうか。社会が期待しているからでしょうか。教師という仕事が明らかに他の仕事と峻別される点は、「この仕事の全てが目の前の子供たちのためにある」ということです。だから、前述の教師像や姿勢の具体化も、全てが目の前の子供たちのためにあり、それが教育の成果につながったとき、結果として社会の期待に応えることにもなるのです。

そして、もっと広い捉え方をすれば、教師として生きる毎日の全てが目の前の子供たちの教育につながっているといえます。やがて感じると思いますが、自己の資質や能力の向上のための努力は言うまでもなく、自己の経験の幅を広げることにも、特技を磨くことや趣味に費やす時間でさえも、気付けば全てに目の前の子供たちの教育に生かせる何かを常に求めるようになります。こうした毎日の全てが子供の笑顔につながる、成長につながると思うと、生きる力がみなぎってくるようになれば一人前です。

教師としての人生には、様々な苦難も待っています。全体の奉仕者である教育公務員として、自分を律する意識は人一倍もたねばなりません。一人一人の子供の命を預かる以上、責任も重くなります。しかし、必ず教師になって良かったと思うときが来ます。それは自分の注いだ愛情で、子供たちが育てたい姿に変容したときです。その時感じる達成感や充実感、全ては目の前の子供たちのためにという思いで仕事に打ち込み、生き抜いているからこそ得られるものです。子供の成長にたくさんの感動と喜びを感じながら、この道をまい進していく皆さんの雄姿にいつか会える日を楽しみにしつつ、“卒塾、本当におめでとう。”